

学生企画のボランティア活動は、住友商事・東日本再成ユース
チャレンジプログラムから助成を受けています。

ボラスステ新聞

2015年度
第1号
二〇一五年
五月十五日
発行

「心をひとつに 3.11」

絵灯籠が作ったメッセージ

二〇一五年三月。東日本大震災から四年が経ち、今年も閉上追悼イベントが行われました。八日(日)は閉上小学校が、十一日(水)は閉上中学校が会場でした。

追悼イベントのメインは絵灯籠。この絵灯籠には、「平和」「祈り」といった復興を願うものから、「笑顔」「未来」と前向きな言葉が綴られたものまでたくさんありました。

「心をひとつに 3.11」。小さな絵灯籠が作った大きなメッセージ。震災があったことを忘れてはいけないと思うと同時に、後世に伝えていく役割があると感じました。

また、十一日は追悼イベントに参加した学生と、名取市文化会館で行われた東日本大震災名取市追悼式に参加した学生がい

ます。追悼イベントでは車の誘導や、絵灯籠の後片付けを、追悼式では、受付や市民の方々の誘導、献花を行ったようです。それぞれ参加して、改めて3.11に向き合えたのではないかと思います。(表現文化学科三年 渋谷佳代)



ボランティアのあり方

国連防災世界会議に参加してみよう

三月十七日、第三回国連防災世界会議パブリック・フォーラム【シンポジウム】が行われました。

午前の部は、学都仙台コンソーシアムに参加している学校や団体による活動発表があり、TASKIは仮設住宅での活動についてプレゼンしました。また、

他大学では、フィールドワークを行っていたり、小学校等の施設に向いて教育支援をしたりと様々な角度から復興に携わっているようです。同世代の人たちがどんな活動をしているのかわかる良い機会になりました。

午後の部は、「復興に関わる学生ボランティアと大学」をテーマに、学生の発表と、阪神淡路大震災の経験をもとにした基調講演でした。「ボランティアはあくまで被災した方に寄り添うことが

大事であって、何でもやればいいというわけではない」、「支援する側、される側は互いに依存する関係ではない」ということを学びました。

これからどんな仮設住宅支援にしていくか、TASKI全体で考えていく必要があると感じたフォーラムになりました。

(現代社会学科三年 庄司晴香)



編集後記

2015年度最初のボラスステ新聞を無事発行することができました。今年度は、発行頻度を増やし、多くの方に知っていただくのはもちろん、活動の記録としても残していきたいと思います。毎回、記事を書くメンバーを変えていきます。どうぞご覧ください。(表現文化3年渋谷佳代)